

# 歴史民俗資料館だより No.111

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

## 甦れ 出島展

会期 10月15日(木)～12月13日(日)

展示品 新発見の国内最大の出島図・陶磁器・  
更紗・ガラス製品・漆器など 約 100 点

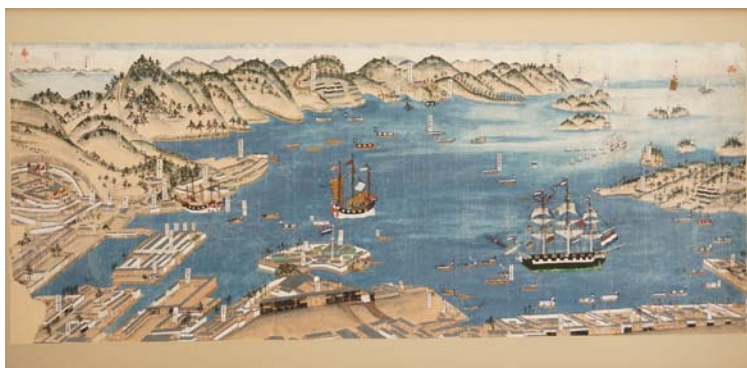
はじめに

「鎖国された日本社会を1個の暗箱とすれば、針で突いたような穴がいわば長崎であり、外光がかすかに射しこんでいて、それがオランダだった。」有名な司馬遼太郎氏の『オランダ紀行』の1文です。この長崎での舞台が出島でした。やがて、出島は幕末にその役割を終えて、市街地に取り込まれ扇形の島の形は失われていきました。

しかし、戦後から整備事業が進められ、次第に18世紀前半の景観が甦りつつあります。

そこで、当館は、このたび新発見の大出島図や関係資料を展示し、出島に対する認識を深めていただこうと、今回の展示を企画いたしました。

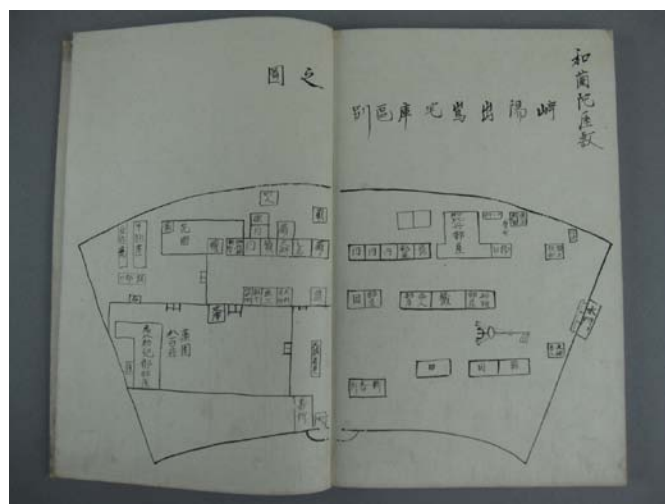
展示に際しまして貴重な資料を御提供いただきました西 隆義様を始め関係者各位に深く御礼申し上げます。



泥絵長崎港図

弘化～嘉永年間 (1844～1853年) 森田武利氏寄贈

本資料は、長崎港の警備状況を詳細に泥絵で描いています。無落款ですが、神戸市立博物館蔵の城義隣筆長崎港図(泥絵)などと比較して当該資料が同一作者と推測されます。



長崎風俗図

文政9～11 (1826～28)年 個人蔵

米沢出身の伊東救庵は、シーボルトに師事して出島に出入りし、本図などを描きました。



棹銅、VOC銅貨・銀貨

個人蔵

日本から輸出された棹銅は銅貨などにも使用されました。資料は(1728～1840年)のものです。



染付騎士絵皿  
17世紀初頭

染付芙蓉手花鳥文 VOC 字紋皿  
18世紀前半

個人蔵



蠻館回禄之図 寛政10(1798)年 西 隆義氏蔵



出島鳥瞰図 文化6(1809)年 個人蔵